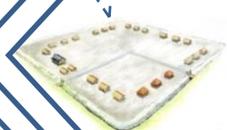




恒川 NEWS



正倉院から瓦が出土!!

102次確認調査を継続しています。102次調査場所は、正倉院を区画する溝の内側、正倉院の一部です。今次調査では、正倉院の中から古代瓦が出土しています。

瓦は西暦588年、仏教と共に日本へ伝来したといわれており、当初は専ら寺院に限られて用いられました。やがて宮殿や中央官衙にも用いられ、8世紀（700年代）中頃以降に、地方の官衙にも用いられるようになったといわれています。

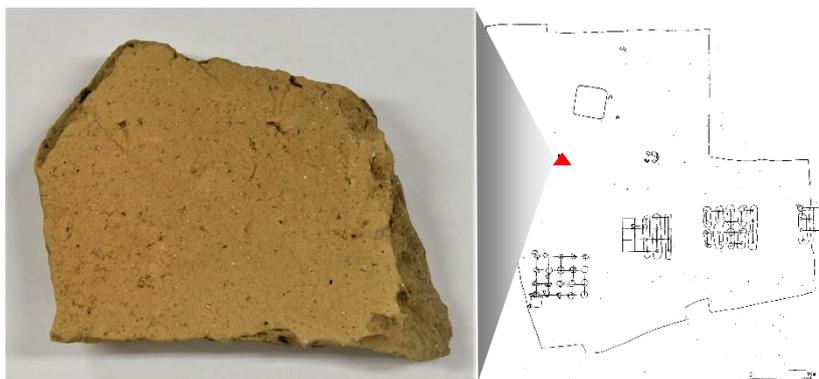
今回出土瓦により、恒川遺跡群出土の古代瓦は31点になりました（うち15点が飯田市有形文化財）。主な出土地点は正倉院で、正倉院を区画する溝内部から12点、溝よりも内側からの出土は、今回を含めて14点になります。こうしたことから、板葺きの正倉に加え、一部には瓦葺きの正倉があったと考えられます。

今回出土した瓦は、およそ6cmと細かく割れてしまっています。出土場所は、礎石建物（SB001）の北側約20m弱の位置で、奈良時代の地面と考えられる地層です。また、これまで出土した瓦と同様に赤化しており、火を受けた可能性が考えられます。

炭化米や焼けた礎石（恒川ニュースNo.25参照）から、恒川遺跡群の正倉は度々火災に見舞われたことは間違いないでしょう。しかし、火災現場を目にされた方は想像がつくかと思いますが、建物一軒が焼失すると多量の炭や燃え止しなどが残ります。発掘調査で出土する炭化物（建物木部）や炭化米（収納物）の量は、火災現場のそれと比べて圧倒的に少なく、焼土も残されていません。推測ですが、火災の後に周辺の大掃除が行われ、こうした火災廃棄物のほとんどが別の場所に纏めて廃棄されたのではないのでしょうか。現在確認されている遺物は、おそらくは掃除から漏れたものでしょう、その極一部に過ぎないと考えられます。そして、恒川遺跡群のどこかに大量の炭や瓦礫などを捨てたゴミ穴があるのではないのでしょうか。

当時はゴミでも、我々にとっては宝の山ですが。。

なお、102次調査区全体の様子は、恒川ニュース22・23号に掲載しております。



今次出土瓦片（左）と出土地点（右図中三角形）図中の格子状のものは正倉建物の位置を表している

調査では何を調べているの？

102次確認調査は、正倉の建物配置や構造、時期ごとの変遷を把握して、伊那郡衙の実態解明を目指しています。正倉の調査では、次の項目の把握に努めています。

- 建物の規模
- 建物の廃棄方法
- 基礎工事の方法
- 建て替えの痕跡
- 建物に付属する施設
- 炭化物（炭化米・木片）採取 等

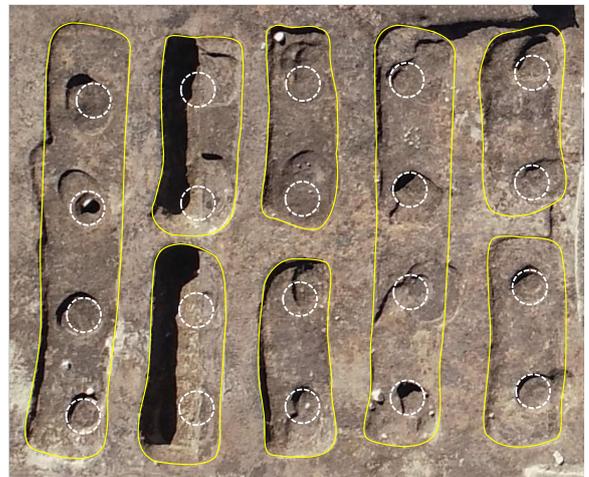
発掘調査では、土の質の違い等からこのような情報を引き出し、写真と図面で記録に残す作業を行っています。具体的にはどうということか、数回にわたって恒川ニュースで解説したいと思います。今回は、**基礎工事の方法** についての紹介です。

基礎工事の方法

掘立柱建物は、地中に穴を掘って柱を立てます。地面に掘る穴（掘り方）の形状でいくつか分類されています。地業とは地盤改良工事のことで、版築（粘土などを薄く敷き、敲き締めて地盤を堅固にする）や砂利や礫などを入れて埋め戻すことですが、恒川遺跡群の正倉では版築等が観察できず、単に掘削時の排土を埋め戻しただけです。ですから、恒川遺跡群では“布地業”というよりも、“布掘り”といった方が適切です。

- 坪地業つぼじぎょう：柱1本に対して、一つの穴を掘り、柱を立てて埋め戻します。
- 布地業ぬのじぎょう：柱数本分をまとめて細長い穴を掘り、柱を立てて埋め戻します。
- 総事業そうじぎょう：建物全体の土を入れ替えて柱を立てます。

現在調査している正倉05・07は、いずれも3×4間の総柱の掘立柱建物です。07は梁間方向に柱4本分を纏めて掘っているとみられます。正倉05は、梁間方向に4本分の掘り方と、2本分の掘り方が混在しています。この正倉列の東側の延長に位置する正倉03では、布掘りと坪掘りが混在しています。これらの正倉群は同時期に存在したと考えられますが、方法が統一されていません。布掘りは、柱と柱の間の分も掘らなければなりませんので大変です。地中梁（地下で柱と柱を連結させる）の痕跡は確認できませんので、柱の位置を詳細に決めることなく、とりあえず穴を用意する場合に用いられたのかもしれませんが。確かに、柱の位置が掘り方の端に偏っているものもありますね。推測ですが、正倉火災など、正倉を急ピッチで造営しなければならぬ事情があったのかもしれませんが。



正倉05 黄色い線が掘り方、白い点線は柱の推定位置。柱2本1組の掘り方と、柱4本1組の掘り方が混在

恒川まいにち見学会！

恒川官衙遺跡の発掘調査では、毎日現場のようすを直接ご覧いただけます。

- ・平日10時～15時（土日祝・雨天等休み）
 - ・現地で調査員が直接解説します。
- ぜひお気軽にお立ち寄りください！

史跡恒川官衙遺跡調査速報26

令和2年10月12日発行 飯田市教育委員会

生涯学習・スポーツ課 文化財活用係

調査担当者：羽生俊郎

TEL：0265-22-4511（内線：3755）

FAX：0265-22-7969

E-MAIL：bunkazai@city.iida.nagano.jp

HP：https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai

